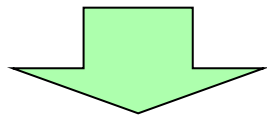


北九州市(黒崎地区)中心市街地活性化基本計画(計画期間 20年7月～26年3月) ※ 期間延長適用後

【中心市街地を巡る状況】

- 長崎街道の豊前と筑前の結節点に位置し、街道最大の宿場町（黒崎宿）として江戸時代より繁栄
- 大正から昭和初期に大型工場の立地が相次ぎ、就業人口の増大とともに黒崎駅を中心に市街地も発展
- 郊外部への大規模店舗の進出、業績不振による各店舗の撤退により、中心市街地が著しく空洞化



○歩行者通行量の減少

賑わい・交流シンボル軸及び中心商店街ゾーン内の10調査地点
(土・日・平日の3日間平均の合計値)

H11 : 34,248人/日

→ H19 : 20,164人/日 (41%減)

○小売業年間商品販売額の減少

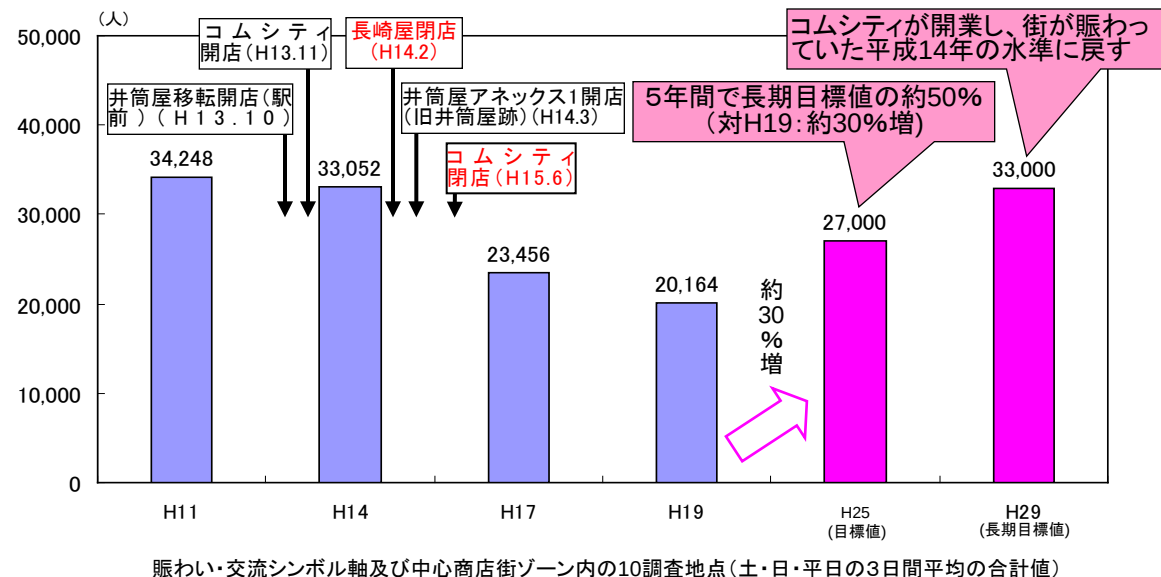
H11 : 82,677百万円

→ H19 : 43,500百万円 (47%減)

【目標】

目標	指標	現況数値	目標数値(H25年)
来街者で賑わうまち	歩行者通行量 (中心市街地内10地点)	20,164人/日 (H19年)	27,000人/日
住みたい・住み続けたいまち	居住人口	5,689人 (H19年)	6,300人
経済活力のあるまち	小売業年間商品販売額	43,500百万円 (H19年)	48,700百万円
	中心商店街空き店舗率	21% (H19年)	16%

(歩行者通行量の推移)



旧長崎街道黒崎宿の歴史・文化を活かした祭りやイベントなどを開催するとともに、文化・交流施設や駅前商業施設等の整備を行うことにより、北九州市西部地区のにぎわい拠点としての復活を目指す。

北九州市(黒崎地区)中心市街地活性化基本計画の事業概要

来街者で賑わうまち

- 長崎街道黒崎宿をイメージした通りの整備や周辺景観の整備により、商店街の回遊性を高め集客力を高める



- 歴史・文化を活かした季節折々の祭りやイベントの開催により賑わいを創出



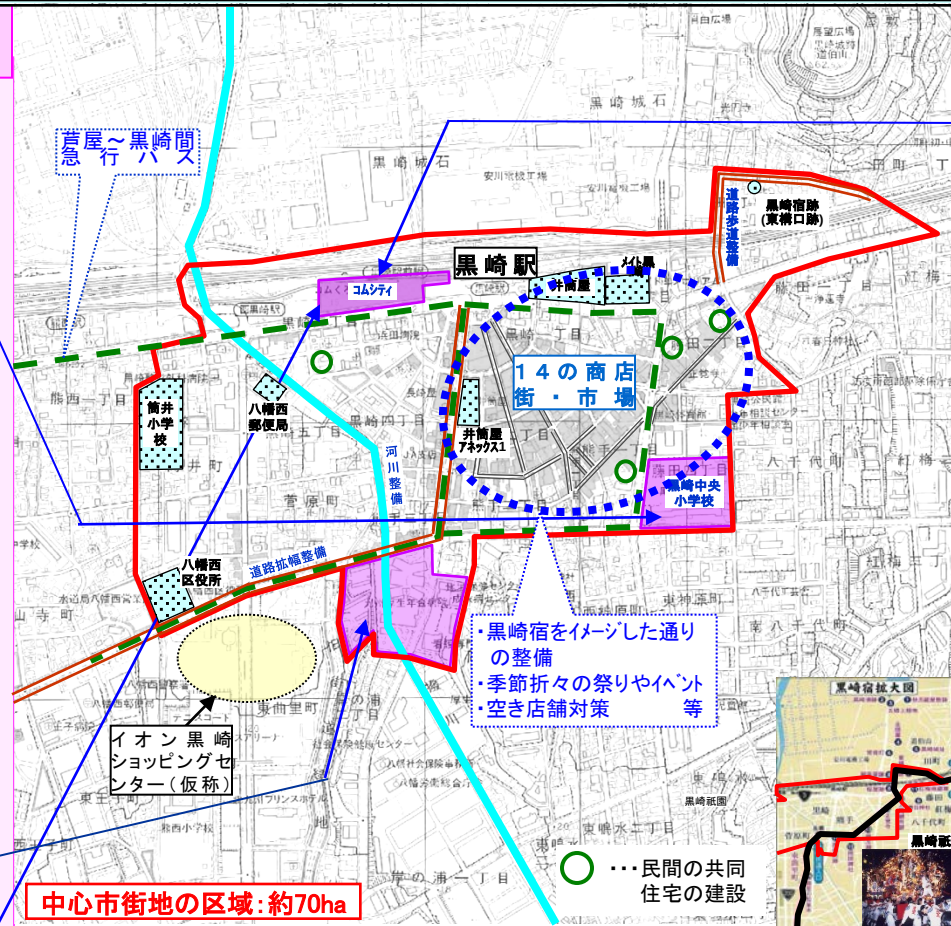
- ホール・図書館・親水広場など文化・交流施設の整備により中心市街地の賑わい・交流空間を創出



- 託児・遊び空間の拡張など利用者ニーズに合った「子どもの館」のリニューアルによる魅力ある子育ての充実



- 商店街の空き店舗を活用して休憩所やトイレ、案内板等を整備し、来街者の利便性の向上を図る



住みたい・住み続けたいまち

- 低・未利用地の活用や既存建物の更新を契機とした民間の共同住宅の建設を促進する支援制度を充実

- 文化・交流施設や商業施設の立地による生活の利便性の向上、道路・河川等の基盤整備による安全で快適な居住環境の整備を実施



経済活力のあるまち

- 物販・飲食等の商業機能に加え、医療等の公益的なサービス機能などを含めた複合的な機能の導入による魅力ある集客核として再生(H15.6商業部分が閉鎖された「コムシティ」の再生)



- 意欲ある優れた起業家に対し、空き店舗を低額賃料で提供し個性的で魅力ある商店街を創出



- 新たに立地する「イオン黒崎ショッピングセンター(仮称)」との連携による巡回バスの運行、芦屋町や学術研究都市(若松区)方面と黒崎間の急行バスの試験運行による集客強化



- 地元大学生が毎日曜日に「まちのおもてなし係」として商店街の各店舗の案内を実施